



取締役執行役員常務兼 CFO の柴田でございます。
ご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。



本日はまず私から 2014 年 3 月期通期の決算概要および 2015 年 3 月期第 1 四半期の業績予想についてご説明いたします。

その後、会長の作田から利益成長に向けた当社の取り組みについてお話させていただきます。

エグゼクティブサマリー（通期決算および業績予想）	
2014年3月期 通期 決算概要	
■ 半導体売上高は、自動車や産業機器向けが年間を通じて堅調を維持したことと円高の是正により、前期比10%増の7,968億円となった	
■ 営業損益は、売上増に伴う利益増に加えて、構造改革による固定費削減効果が大きく、676億円を計上	
■ 当期純損益は、下期で75億円の黒字化を達成し、通期では53億円の赤字となり、前期から1,623億円改善	
2015年3月期 第1四半期 業績予想	
■ 半導体売上高は、前四半期および前年同期と比べ微増の1,960億円を見込む	
■ 営業損益は、事業・生産構造改革の実行効果などにより収益力が改善し、200億円を見込む	
■ 四半期純損益は、前四半期から黒字転換し140億円を見込む	
© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 3 RENESAS	

こちらが通期決算と業績予想のサマリーです。

第一に、2014 年 3 月期通期の決算概要についてです。

通期の半導体売上高は、自動車や産業機器向けが年間を通じて堅調を維持したことと円高の是正により、前期比 10%増の 7,968 億円となりました。

営業損益は、売上増に伴う利益増に加えて、構造改革による固定費削減効果が大きく、676 億円を計上しました。

当期純損益は、下期で 75 億円の黒字化を達成し、通期では 53 億円の赤字となり、前期から 1,623 億円改善しました。

第二に、2015 年 3 月期第 1 四半期の業績予想についてです。

第 1 四半期の半導体売上高は、前四半期および前年同期と比べ微増の 1,960 億円を見込んでいます。

営業損益は、事業・生産構造改革の実行効果などにより収益力が改善し、200 億円を見込んでいます。

四半期純損益は、前四半期から黒字転換し、140 億円を見込んでいます。



それでは、2014 年 3 月期通期の決算概要について詳しくご説明いたします。

2014年3月期 通期 決算概要

- 通期の半導体売上高は、自動車や産業機器向けが年間を通じて堅調を維持したことと円高の是正により、前期比10%増の7,968億円
- 通期の営業損益は、構造改革による固定費削減効果が大きく、676億円を計上
- 当期純損益は下期で75億円の黒字化を達成し、通期では53億円の赤字となり、前期から1,623億円改善
- 第4四半期は、季節性要因もあるも、自動車や産業機器向けの堅調な出荷が続き、売上高・損益ともに想定を上回りました。

(単位:億円)

		2014年3月期							
		第4四半期	前年同四半期比	前四半期比	予想比	下期	通期	前年通期比	予想比
売上高	2,008	+151 (+8.2%)	▲151 (▲1.0%)	+106 (+5.5%)		4,181	8,330	+472 (+6.0%)	+106 (+1.3%)
売上総利益(率)	752	+71 (+9.0%)	▲39 (▲1.0%)	—		1,592	3,097	+899 (+29.3%)	—
半導体売上高	1,918	+172 (+9.5%)	▲158 (▲1.0%)	+86 (+3.7%)		3,995	7,968	+723 (+9.0%)	+86 (+1.0%)
営業損益	170	+85	▲130	+130		469	676	+909	+129
経常損益	154	+87	▲140	+144		447	586	+855	+144
四半期純損益	▲165	▲95	▲394	+185		75	▲53	+1,623	+185
(※半・特別損益)	▲275	▲174	▲298	+15		▲283	▲431	+828	+15
103円	103円	141円	141円	141円	20円 100円	101円	106円	101円	100円
13-13円	141円	235円	70円	20円 100円		137円	133円	217円	100円

※本決算における特別損益は当期売上入りの特別引当(日本橋一社引当)

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

5

RENESAS

こちらが通期実績のサマリです。

先ほども申し上げましたとおり、通期の半導体売上高は、自動車や産業機器向けが年間を通じて堅調を維持したことと円高の是正により、前期比 10%増の 7,968 億円となりました。

通期の営業損益は、売上増に伴う利益増に加えて、構造改革による固定費削減効果が大きく、676 億円を計上しました。

当期純損益は、下期で 75 億円の黒字化を達成し、通期では 53 億円の赤字となり、前期から 1,623 億円改善しました。

また、第 4 四半期は、季節性要因があるものの、自動車や産業機器向けの堅調な出荷が続き、売上高・損益ともに想定から上振れしました。



6 ページは、四半期ごとの業績推移です。

第 4 四半期の半導体売上高は、季節要因により前四半期比で減っていますが、前年同期比では 10%増となりました。

営業損益は、構造改革による固定費削減が寄与し、5 四半期連続で黒字を確保しました。

2014年3月期 半導体売上高の事業別状況①

- 第4四半期は、季節要因あるも自動車や産業機器向けの堅調な出荷が続き、マイコンは前期比横ばい
- 年間を通じて自動車や産業機器向けが堅調を維持したことにより、通期のマイコンとアナログ&パワーの売上高は前期比で10%半ばの伸長

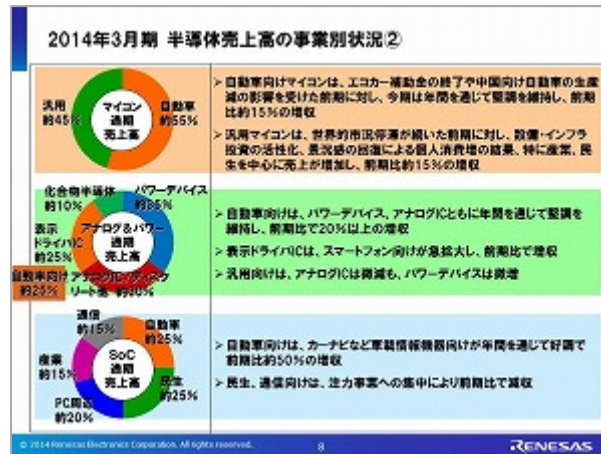
(単位:億円)	2014年3月期				
	第4四半期	前年同期比 (%)	前四半期比 (%)	通期	前期比 (%)
半導体売上高 計	1,918	+10.3%	▲7.6%	7,968	+10.0%
マイコン	892	+15.0%	▲0.7%	3,536	+15.9%
アナログ&パワー 半導体(A&P)	625	+14.4%	▲13.7%	2,725	+15.9%
SoC	388	▲0.5%	▲11.4%	1,648	▲5.0%
その他半導体	13			59	

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 7 RENESAS

7 ページは、通期および第 4 四半期の事業別半導体売上高です。

第 4 四半期は、季節要因があるものの、自動車や産業機器向けの堅調な出荷が続き、マイコンは前期比横ばいとなりました。

年間を通じて自動車や産業機器向けが堅調を維持したことにより、通期のマイコンとアナログ&パワーの売上高は前期比で 10%半ばの伸長となりました。



8 ページは、通期の事業別半導体売上高について、さらに分野別で詳しく示したものです。

マイコンについては、

- ・自動車向けがエコカー補助金の終了や中国向け自動車の生産減の影響を受けた前期に対し、今期は年間を通じて堅調を維持し、前期比約 15%の増収となりました。

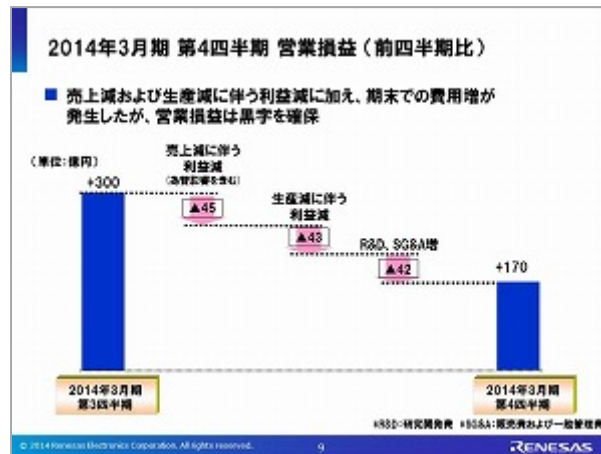
- ・汎用向けについても、世界的市況停滞が続いた前期に対し、設備・インフラ投資の活性化、景況感の回復による個人消費増の結果、特に産業、民生を中心に売上が増加し、前期比約 15%の増収となりました。

アナログ&パワー半導体については、

- ・自動車向けは、パワーデバイス、アナログ IC とともに年間を通じて堅調を維持し、前期比で 20%以上の増収となりました。
- ・表示ドライバ IC は、スマートフォン向けが急拡大し、前期比で増収となりました。
- ・汎用向けは、アナログ IC は微減も、パワーデバイスは微増となりました。

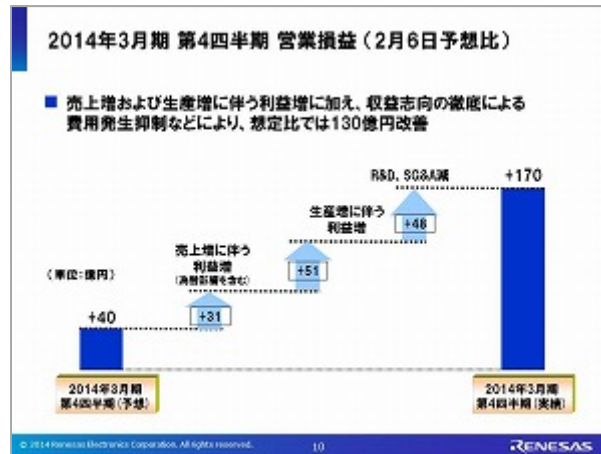
SoC については、

- ・自動車向けは、カーナビなど車載情報機器向けが年間を通じて好調で前期比約 50%の増収となりました。
- ・民生、通信向けは、注力事業への集中により前期比で減収となりました。



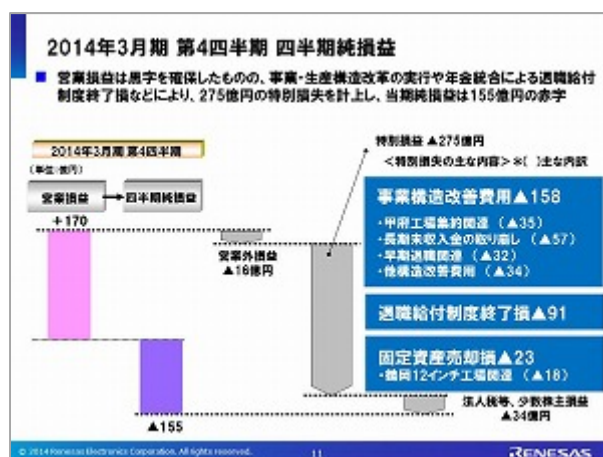
9 ページは、第 4 四半期の営業損益について、前四半期からの増減で示したものです。

売上減および生産減に伴う利益減に加え、期末での費用増が発生しましたが、営業損益は 170 億円の黒字を確保しました。



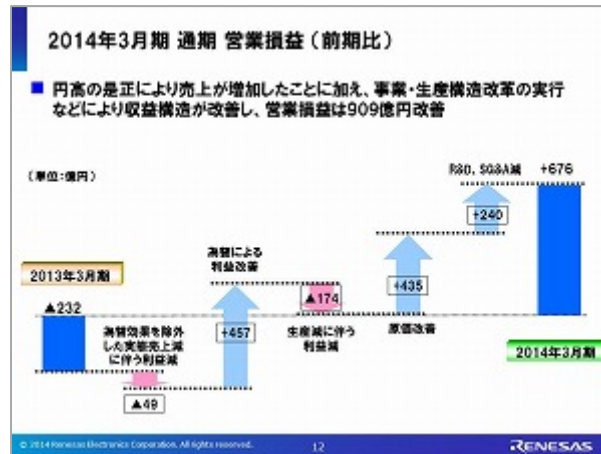
10 ページは、第 4 四半期の営業損益について、2 月 6 日に公表した業績予想における営業損益からの増減で示したものです。

売上増および生産増に伴う利益増に加え、収益志向の徹底による費用発生抑制などにより、2 月 6 日に公表した 40 億円の営業黒字に対して、130 億円改善し、営業損益は 170 億円となりました。



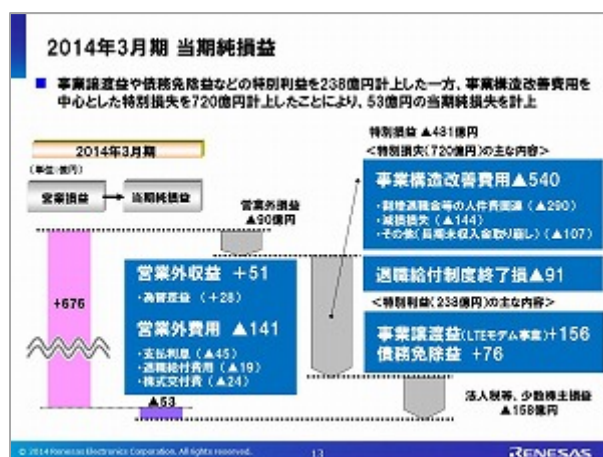
11 ページは、第 4 四半期の四半期純損益の状況について、営業損益からの内訳を示したものです。

営業損益は黒字を確保したものの、事業・生産構造改革の実行や年金統合による退職給付制度終了損などにより、275 億円の特別損失を計上し、当期純損益は 155 億円の赤字となりました。



12 ページからは、通期の実績について説明します。 まず、通期の営業損益について、前期からの増減で示したものです。

円高の是正により売上が増加したことに加え、事業・生産構造改革の実行などにより収益構造が改善し、営業損益は前期から 909 億円改善し、676 億円の黒字となりました。



13 ページは、通期の当期純損益の状況について、営業損益からの内訳を示したものです。

LTE モデム事業譲渡や当社の債権者である一部の株主による債務の一部免除などにより特別利益を 238 億円計上しました。一方で、早期退職優遇制度の実施などの事業構造改善費用を中心とした特別損失を 720 億円計上したことにより、53 億円の当期純損失を計上しました。

バランスシートの状況			
■ 自己資本比率は30%前後に向上し、前期比で財務体質は大幅に改善			
(単位:億円)	13/3末	13/12末	14/3末
総資産	6,891	7,958	7,860
うち 現金及び現金同等物	777	2,660	2,659
うち たな卸資産	1,513	1,285	1,261
負債合計	5,912	5,436	5,587
うち 有利子負債	3,064	2,809	2,709
株主資本	758	2,360	2,206
純資産合計	779	2,522	2,273
0/1レシオ(グロス)	4.59倍	1.17倍	1.26倍
0/1レシオ(ネット)	3.43倍	0.06倍	0.02倍
自己資本比率	10.0%	30.2%	27.3%

(注1) 総資産は「現金及び現金同等物」(当期末2,659億円)、「たな卸資産」(当期末1,261億円)、「総資産の20%未満の固定資産」(当期末5,339億円)を構成している。
 (注2) 有利子負債は「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「3年以上返済予定の長期借入金」、「長期借入金」を構成している。
 (注3) 0/1レシオは「総資産の20%未満の固定資産」(当期末5,339億円)を構成している。

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

14 ページはバランスシートの状況です。

自己資本比率は 30%前後に向上し、前期比で財務体質は大幅に改善しました。

キャッシュ・フローの状況

■ 構造改革の推進により営業利益を確保し、2014年3月期のフリー・キャッシュ・フローは全四半期で黒字を確保、通期では745億円と前期から大幅に改善

2013年3月期		2014年3月期				
(単位：億円)	通期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期
営業活動による キャッシュ・フロー	▲541	284	90	339	224	937
投資活動による キャッシュ・フロー	▲432	▲25	▲65	▲34	▲68	▲192
フリー・ キャッシュ・フロー	▲973	259	25	305	156	745

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 15 RENESAS

15 ページは、キャッシュ・フローの状況です。

構造改革の推進により営業利益を確保し、2014 年 3 月期のフリー・キャッシュ・フローは全四半期で黒字となりました。これにより、通期のフリー・キャッシュ・フローは 745 億円となり、前期から大幅に改善しました。



次に、2015 年 3 月期第 1 四半期の業績予想についてご説明いたします。

2015年3月期 第1四半期 業績予想

- 半導体売上高は、前年同期と比べ3.4%増の1,960億円を見込む
- 営業損益は、事業・生産構造改革の実行効果などにより収益力が改善し、200億円を見込む
- 四半期純損益は、140億円と前四半期から大幅な改善を見込む

(単位: 億円)	2014年3月期		2015年3月期		
	第1四半期 (会計)		第1四半期予想 (会計)	前四半期比	前年同期比
売上高	1,991		2,020	+15 (+0.7%)	+29 (+1.5%)
売上総利益(率)	727 (36.5%)		755 (37.4%)	+3 (▲0.1Pt)	+28 (+0.9Pt)
半導体売上高	1,896		1,960	+42 (+2.2%)	+64 (+3.4%)
営業損益	98		200	+30 (+17.9%)	+102 (+104.5%)
経常損益	85		175	+21 (+13.8%)	+90 (+105.0%)
当期純損益	▲40		140	+295	+180
(●●)特別損益	▲87		▲10	+265	+77
1US\$=	98円		100円	3円 円高	2円 円高
1ユーロ=	127円		136円	5円 円高	9円 円高

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 17 RENESAS

17 ページが、第 1 四半期の業績予想です。

半導体売上高は、前年同期と比べ 3.4%増の 1,960 億円を見込んでいます。

営業損益は、事業・生産構造改革の実行効果などにより収益力が改善し、200 億円を見込んでいます。

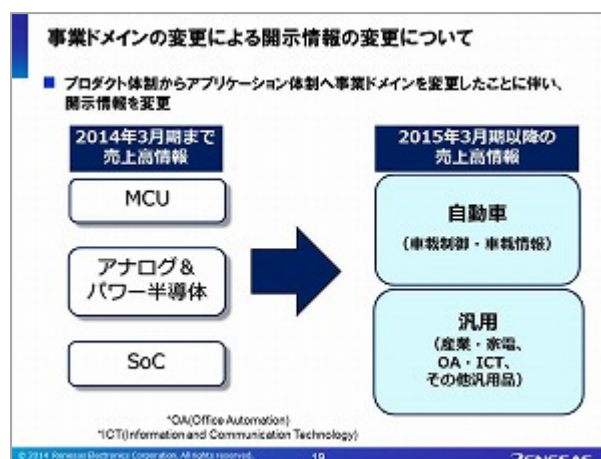
四半期純損益は、140 億円を予想し、40 億円の赤字であった前四半期からの大幅な改善を見込んでいます。



18 ページは、四半期ごとの業績推移です。

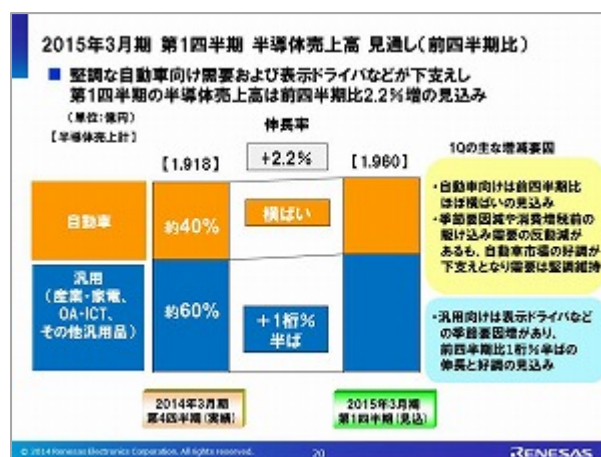
2015 年 3 月期第 1 四半期の半導体売上高は、前四半期および前年同期と比べ微増の見通しです。

一方、営業利益は事業・生産構造改革の実行効果などにより前年同期と比べ倍増する見通しです。



19 ページは 2013 年 10 月 30 日に発表した「ルネサスを変革する」の資料からの抜粋ですが、2013 年 12 月より事業ドメインを、MCU、アナログ&パワー半導体、SoC といったプロダクト軸から、自動車、汎用から成るアプリケーション軸に変更しています。

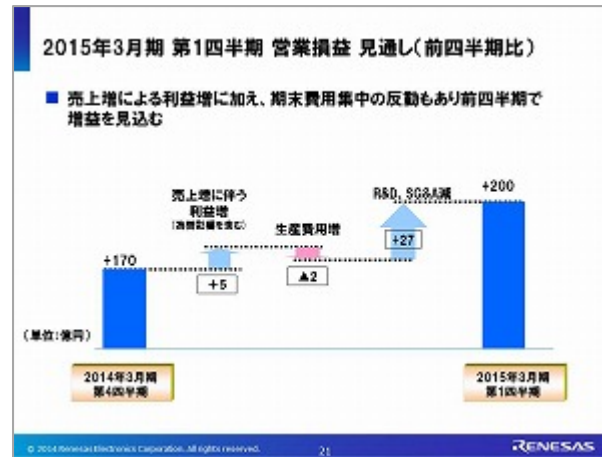
これに伴い、2015 年 3 月期以降は、売上高情報の開示内容も変更し、アプリケーション軸の自動車、汎用の区分にて売上を開示いたします。



20 ページは、第 1 四半期の半導体売上高について、新セグメントでの見通しを示したものです。

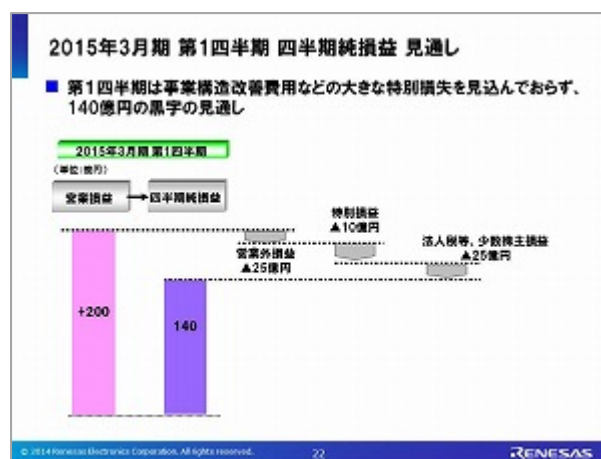
堅調な自動車向け需要により、第 1 四半期の自動車向けの売上高は前四半期比横ばい、汎用向けも季節要因で増加する表示ドライバなどが下支えし、前四半期比で 1 桁%半ばの伸びを見込んでいます。

その結果、第 1 四半期の半導体売上高は前四半期比 2.2%増の見込みです。



21 ページは、第 1 四半期の営業損益について、前四半期からの増減で示したものです。

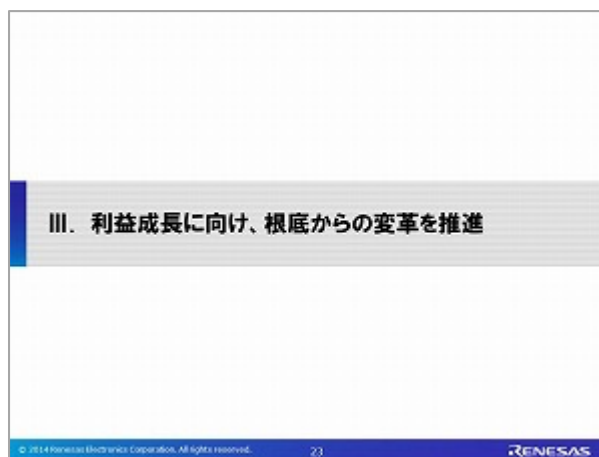
売上増による利益増に加え、第 4 四半期で期末のために集中した費用増の反動もあり、第 1 四半期の営業利益は前四半期から 30 億円増益の 200 億円を見込んでいます。



最後に、23 ページは、第 1 四半期の四半期純損益の見通しについて、営業損益からの内訳を示したものです。

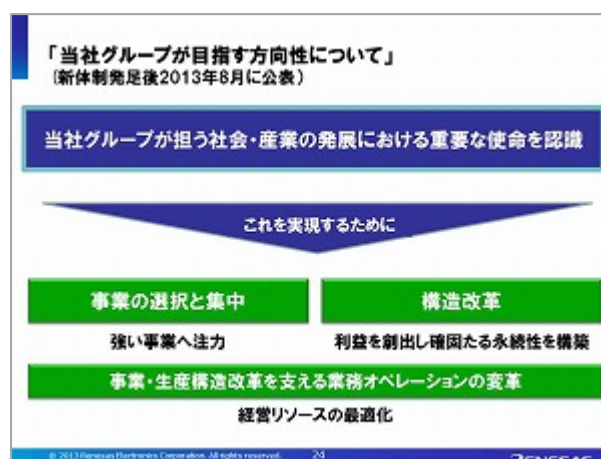
第 1 四半期は前四半期で計上したような事業構造改善費用などの大きな特別損失を見込んでおらず、140 億円の黒字の見通しです。

続いて、会長の作田より、利益成長に向けた当社の取り組みについてお話させていただきます。



作田です。

それでは私から当社の昨年度の取り組みと今後の事業運営についてお話しします。



昨年 6 月末に当社の会長に就任して、8 月に初めて皆さんの前で当社の目指す方向性について説明いたしました。

当社グループは、社会・産業における役割が極めて大きく、早期に経営を健全化し、社会・産業の発展のために尽くすことが当社グループの重要な使命だと考えています。

この社会・産業における使命を実現するためには、安定した収益を継続的に確保できる体質となる必要があり、当社グループは体質変革に向けて事業の選択と集中、構造改革、オペレーションのそれぞれにおいて、大きな改革を進めています。

当社は、事業ポートフォリオの変革を図る中で、売上の増加に依存せず、安定した利益を生み出せるよう構造改革を今後も推進してまいります。



昨年 8 月に当社の方向性の提示を行い、10 月にそのプランを策定し、実行フェーズに入っています。先ほども申し上げましたが、安定した収益を継続的に確保できる体質となるためには、まずは収益が出せる体質への変革が必要です。

体質変化をはかるプランとして

- 「1. マーケットイン志向へ事業ドメインを変革」、
- 「2. 収益志向の組織・仕組みへ変革」
- 「3. グローバルな経営・組織体制へ変革」

の 3 つを骨子とした、「変革プラン」を策定しました。

既に実行フェーズに入り 6 か月が経過しました。残り 24 か月確実に「変革プラン」を完遂することで、安定した収益が取れる体質に変革し、16 年度の営業利益率 2 桁を目指します。



当社が新しい経営陣としての再建をスタートしてから約 10 か月、「事業の方向性」「変革プラン」に基づき、様々な施策を実施してきました。

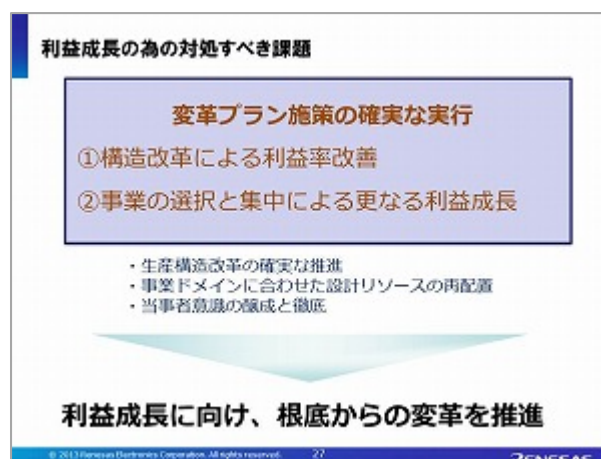
経営基盤の強化として、まずは産業革新機構および事業会社 8 社からの 1,500 億円の資金調達の実施を行い、財務基盤を安定させました。

そして、不採算事業からの撤退として LTE モデム事業をブロードコム社に譲渡し、大きな出血を止めました。

そして、安定した収益の確保に向けた体質強化として、鶴岡工場のソニーへの譲渡など生産拠点の再編を実施してきました。

事業運営における効率の向上についても設計会社の統合や製造会社の再編などを進めています。

また、コスト削減のみならず、当社の注力するドメインを製品からアプリケーションへ変革し、マーケットイン志向に向けたマーケティング体制の強化や、製品の競争力強化に向けた半導体の先端技術開発においても構造改革と並行して実施しています。



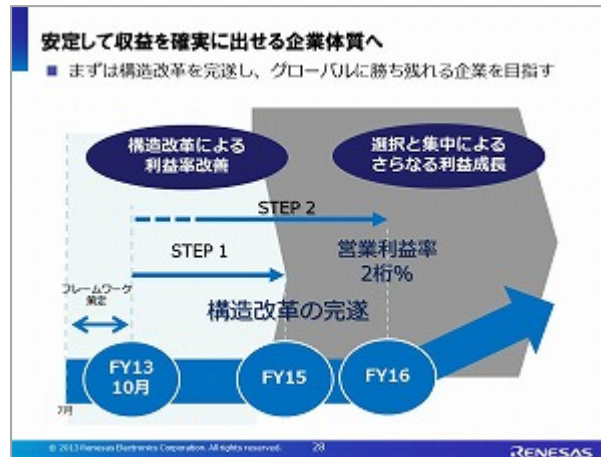
そして当社の今後の取り組みについてです。

当社グループは、先に述べたように構造改革や経営基盤の強化を進めてきましたが、事業環境の変化に対する柔軟な対応や中期的な企業成長を図るためには、さらなる収益性の向上が必要であると考えております。引き続き、「変革プラン」に基づき、「構造改革による利益率の改善」を実行するとともに、安定的な企業成長に向けた「事業の選択と集中によるさらなる利益成長」の実現に取り組んでまいります。

実行にあたっては、生産構造改革を確実に推進することはもとより、事業ドメインに合わせて設計リソースの再配置を推進します。

また加えて、まだまだ課題である当事者意識を、当社グループ内に徹底するための仕組みや体制を整えていきます。

今後も、当社グループの利益成長の実現に向けて、根底からの変革を強く推進していきます。



今後の改革におけるスケジュールのイメージ図です。

「事業の方向性」「変革プラン」に基づき、2015 年度末までに構造改革を完遂し、2016 年度には営業利益 2 桁を安定して創出できる体質への変革を実現し、中長期的にグローバルで勝ち残れる企業を目指します。



以上で当社の昨年度の取り組みと今後の事業運営についての説明を終わります。